特定非営利活動法人
ドクターMAYA 人道基金
ニュース
2020 年
http://dr-maya.net/

＜ 疫 病 の 時 代 ＞

クリニックのあるビルは、関西国際空港と大阪都心を結ぶ JR の駅に直結する半官半民の大きなビルである。何十年も治療を預かって来た患者さん達が通院可能なぎりぎりの立地条件でこの場所となった。

高齢の開院で医療最前線はやはりかなりの負担で、自身の健康管理に失敗するときもあるが、何とか持ちこたえている。そんな低空飛行の駅前クリニックに突然世界的疫病の波が押し寄せた。あっという間に野戦病院と化したクリニックは大騒ぎである。

二人・三人勇敢なスタッフが現れた。丁度ビルの端、非常階段脇の狭い区画にあるクリニックの立地が功を奏した。

「『換気』は非常階段の非常口を開放してもらいましょう。」消毒薬もゴム手袋も、マスクも防御服も業者は持って来られない。「先生、手作りしましょう。」「事務所の倉庫にマスクの備蓄が見つかりました。」「医師会経由の寄附マスクも頂きに行きましょう。」「フェイスシールドも自作しました。」

自家製の消毒薬で、外側・内側のドアノブ、カウンター、トイレ、クリニックの隅々まで消毒をする日課が始まった。　前日から消毒液に浸した現金トレーを洗い直し、朝の診療が始まる。体温計・血圧計・諸々の医療機器の消毒も念入りにする。一人診察室に患者さんが入る度に通気換気を繰り返す。その間スタッフ達は皆で声かけしながら「うがい」「手洗い」を徹底する。自分の娘さんが他の医療施設に勤務している患者さんが「ここのスタッフは徹底的に洗っている」と感心する。

通院中の患者さんが発熱した時は全員が緊張する。電話で詳しく症状を聞き、処方箋はクリニックのスタッフが指定の薬局に届け、御本人は自宅隔離し家族が薬を受け取る。患者さんたちがおびえない様に接触を避けて、安心出来る様に声をかける。

「非常事態」が解除されると、急にマスクをはずしてすがりついてくる患者さんがいる。診察室の床に白テープを貼って「これ以上近寄るのはダメですよ。」と優しくソーシャルディスタンスを指導する。

今迄の仕事から打って変わった過酷なスケジュールに、スタッフの中にストレス病を発症する者が出てくる。

「医療スタッフの皆様　本当にお疲れ様」と書いた貼り紙をクリニックの外壁に貼った。

セラピードッグのボブ＆メリーがウイルス禍を吹き飛ばすチャリティー活動をクリニックモールでやる事が決まった。どこのクリニックも皆苦しんでいる。一緒に集まれないけれど、セラピードッグがリュックを背負ってクリニックの玄関先に激励訪問してみよう。

「医療スタッフの皆様ありがとう」のシールを貼ったお菓子をボブが配って歩いた。人と人がハグし合えない今、ボブにハグするスタッフ達もいた。ボブは一人一人に優しくすり寄って愛の花を渡し、クリニックモールの人々に勇気をくばって歩いた。久し振りに疲弊するクリニックモールに「ありがとう」の響きが満ちたひとときでした。そして、この小さなチャリティー活動で一番癒されたのは私達でした。

NPO 法人ドクターMAYA 人道基金

http://dr-maya.net/